

明治村 だより

1996 Spring



春号
Vol.3

平成八年四月一日発行(季刊)

明治村だより 第三号



ゴールデンウィークイベント

4月27日(土)～5月6日(休)

聖ザビエル天主堂でのコンサートや大道芸、懐かしの遊びコーナーなど、多彩な催しが繰り広げられます。

明治村写真コンテスト

6月30日(日)応募締切

明治村ならではの四季折々の景観をとらえてご応募下さい。

(詳しい応募の規定などはお問い合わせ下さい。)

機織り実演

毎週日曜日 鉄道寮新橋工場・機械館

明治時代の機を使って、布を織ります。

クイズラリー(有料)

第2・4土曜、毎日曜、祝日

明治村に関するクイズを解きながら、村内をまわります。

呈茶(有料)

日曜、祝日

西園寺公望別邸「坐漁荘」または学習院長官舎

新しいショップを開設

木工矯正品などを販売する監獄ショップ(5月6日まで金沢監獄中央看守所内)と懐かしい駄菓子屋(小泉八雲避暑の家内)を開設しました。ご利用をお待ちしています。

明治村の夏催事(予定)

☆建物内部特別公開

シアトル日系福音教会 7月の土・日・祝日

神戸山手西洋人住居 8月の土・日・祝日

☆子供夏期大学

7月20日(祝)・21日(日)・27日(土)・28日(日)

☆明治村写生大会入賞作品展

7月14日(日)～9月1日(日)

☆明治村写真コンテスト入賞作品展

8月1日(木)～11月30日(土)

☆宵の明治村

8月10日(土)～18日(日)

目次

特別展 お雇い外国人 明治をつくった恩人たち	2
お雇い外国人 明治をつくった恩人たち	村松貞次郎 7
明治村の華族たち	林 董一 10
春の明治村	14

〈表紙写真 青山顕七〉

「明治村だより」

第四号(平成八年夏発行のお知らせ)

発行時期 本年七月(予定)

申込方法 「明治村だより」第四号(ご希望の旨及び

ご住所・お名前を明記の上、送料一九〇円分の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

「明治村通信 総目次」(執筆者索引付)発行

(ご希望の方は、ご住所・お名前を明記の上、千円(送料も)同封の上、現金書留にてお申し込み下さい。)

平成八年四月一日発行

「明治村だより」第三号(平成八年春)

発行 博物館明治村

愛知県大山市大字内山一番地

電話〇五六八六七〇三二四 千四八四

東京事務所

東京都千代田区紀尾井町三二二三

文藝春秋ビル新館七階

電話〇三三三三二六三三 五五六六 千一〇二

製作 求龍堂



〈トーマス・J・ウォートルス〉 錦絵京橋銀座通里煉瓦石瓦斯燈夕景ノ図

特別展

お雇い外国人

— 明治をつくった恩人たち —

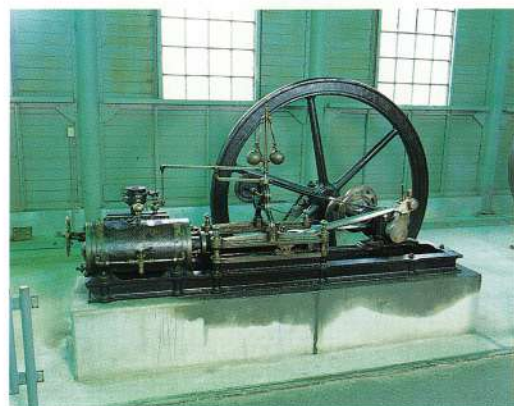
5月6日まで 三重県庁舎1階特別展示室
お雇い外国人11人の業績をあらわす資料・写真など約90点を展示します。
通常の入場券でご覧いただけます。一部の資料については4月21日までの展示となります。

明治時代、政府が近代化への道をめざし、西洋の技術や制度をいち早く導入するために考えた政策が、外国人を教師に雇いわが国に人材を育成することでした。

お雇い外国人の存在は一部の研究者の間ではつとに知られているにもかかわらず、一般にはあまりなじみがありません。彼らが日本でどのような働きをしたかを知ることが、とりもなおさず近代化の歴史そのものを知ることでもあります。

来日したお雇い外国人は様々な分野に亘るが、今回は建設・産業・科学の場で活躍した11人を取り上げました。それぞれの専門分野ではいずれも著名な人間であり、すでに過去にも展覧会が開催されていますが、本展示のようにお雇い外国人を一堂に集めて展覧するのは初めての試みです。各人の全容を表すことはむずかしく、彼らの業績と人間性をあらわす資料を選択して展覧し、明治をつくったともいへべき恩人達に焦点をあてます。

以下登場するお雇い外国人の略歴を述べ、展示する資料の一部をここに紹介します。



〈ポール・ブリュエナ〉 横置単筒蒸気機関



〈エドワルド・キヨソネ〉 錦絵海運橋兜町三井組為換座五階造之真図



〈クルト・ネットー〉 「日本のユーモア」



〈ジョン・ミルン〉 錦絵岐阜県愛知県大地震実況

① ジョサイア・コンドル 【建設・建築】

Josiah Conder (1852—1920 在日期间 1877—1920)
 ロンドンに生まれる。サウスケンシントン美術学校で建築学を学び、パージェス建築事務所で働く。日本政府の工部省技師、工部大学校造家学科の教師として来日。わが国に本格的建築教育を伝えて多くの建築家を育て、日本近代建築の父といわれる。

日本の伝統文化への造詣深く、河鍋暁斎に師事して暁英と号した。日本人を妻とし、東京で没。
 代表的建築作品として、三菱一号館及び鹿鳴館を紹介し、遺されたスケッチブックや日本文化を研究した著書、趣味であった日本画を展示。

② トーマス・J・ウォートルス 【建設・建築】

Thomas J. Waters (1842—没年不詳 在日期间 1868—1877)
 アイルランドに生まれる。来日までの経歴は不明でありその顔写真すら遺されていない。大阪造幣寮のお雇いとなってその設計監督の仕事に携わり、のち銀座煉瓦街の工事を担当した。正規の建築教育は受けていないが、当時の日本の急速な建設期には欠くべからざる万能の技術者であったといえよう。離日してからは上海やアメリカを転々としたと伝えられているが、詳しくは知られていない。

主な業績として大阪造幣寮建設と銀座煉瓦街建設について錦絵と写真で紹介。

③ ウィリアム・M・ヴォーリス 【建設・建築】

William M. Vories (1880—1964 在日期间 1905—1964)
 アメリカ・カンザス州に生まれる。はじめ建築家を志すが、YMCAの活動に加わり海外宣教の仕事に就いた。近江八幡の商業学校で英語教師として来日、以後生涯同地で伝道を基本に建築をはじめ様々な活動を繰り広げた。わが国で最もなじみ深い家庭常備薬メンソレータム(現メンターム)は彼によってもたらされたものである。日本人を妻とし、晩年には帰化して「柳米来留」と名のつた。

一伝道師としての活動と建築家としての顔を遺品と写真により併せて展示。

④ リチャード・H・ブラントン 【建設・灯台】

Richard H. Brunton (1841—1901 在日期间 1868—1876)
 スコットランドに生まれる。日本最初のお雇い外国人として来日。灯台技師として短期間に全国を精力的に回り30基の近代的灯台を設計。また横浜の都市計画にも従事し、港湾・上下水道・橋梁などを手がけ、その仕事ぶりは優秀な技術者として高く評価される。

おもな業績として各地の灯台建設と横浜居留地の建設を図面・錦絵・写真によって展示。

⑤ ヨハネス・デ・レーケ 【建設・土木】

Johannis de Rijke (1842—1913 在日期间 1873—1903)
 オランダに生まれる。土木技術を取り入れた大蔵省土木寮が招聘したオランダ人技師団の一人として来日。約30年の在職中、わが国の治水工事・築港事業・水道工事などに多大な貢献をして、日本の近代土木技術の恩人といわれる。

彼が携わったおもな河川事業として大阪淀川と木曾三川の工事について図面・文書類・写真などで展示。

⑥ ゴットフリート・ワグネル 【産業・窯業】

Gottfried Wagner (1831—1892 在日期间 1868—1892)
 ドイツ・ハノーバーに生まれる。ゲッテンゲン大学で数学・物理・化学を学ぶ。最初は長崎の石鹼工場建設にあたり技術指導のため招聘されたが、有田の窯業技術の近代化に尽力し、のち大学の教授となつて物理や化学を教えた。ウイーンの万国博参加に際し顧問として活躍、日本の伝統工芸を西洋に広めた。日本の窯業技術の発展に寄与した最大の功労者といえる。東京で没。

ワグネルが考案した旭焼と、主な業績について資料・写真などで展示。

⑦ポール・ブリュエナ 【産業・紡績】
Paul Brunat(1840—1908) 在日期间 1869—1875)
フランス・ドロン州に生まれる。リヨンで生糸貿易に携わる。横浜の商館に生糸検査技師として来日。翌年富岡製糸場建設技師としてお雇いとなる。短期間で機械化の導入や優秀な女工の育成などに尽力した結果、良質の生糸生産を可能とし、わが国の製糸業を成功に導いた。

秋田地方の鉱山技師として赴任、技術指導に尽力する。
のち東京大学理学部採鉱冶金学科の教師として迎えられ、わが国に始めて近代的な学問体系を整えた。彼の指導のもと多くの優秀な人材が育成された。
十輪田鉱山の絵図、小坂鉱山写真帖、スケッチ画、書簡、著書など展示。

つく、宮中の侍医も兼ね、上流階級はじめ多くの人
がその診断をおおいだ。また温泉医学の提唱者で
もあり、草津温泉にはベルツの顕彰記念碑が建て
られている。
ベルツの診断メモが記された書簡、内科学の著
書、草津温泉に関する資料など展示。

⑧エドゥアルド・キヨソネ 【産業・印刷】
Eduardo Chiosso(1832—1898 在日期间 1875—
1898)

⑩ジョン・ミルン 【科学・地震】
John Milne(1850—1913 在日期间 1876—1895)
イギリス・リバプールに生まれる。ロンドンの王

イタリア・ジェノバに生まれる。地元美術学校で銅板彫刻を学び、フィレンツェの銀行に奉職、精巧な紙幣製作のため製版技術習得にドイツへ派遣される。
この折日本政府発注の紙幣作成に関わったことが縁で、紙幣寮お雇いとして来日。紙幣をはじめ地券や鑑札、証券類の図案とその銅板の作成に従事し、印刷技術の近代化に大きく貢献した。東京で没。紙幣寮における功績と、銅版画家としての活動を、錦絵・紙幣・肖像画などで展示。

立鉱山学校で学び、ドイツで鉱山技師を務めた。工部大学の鉱山学及び地質学の教師として招聘される。東京に着いたその日に体験した地震がきっかけで興味を持ち、新しい地震計を考案し、日本地震学会を組織するなど近代地震学の確立に尽力した。
地震に関する資料として、濃尾地震の錦絵、著書、ミルン式地震計の写真など展示。

⑨クルト・ネットー 【産業・鉱山】
Curt Netto(1847—1909 在日期间 1873—1885)
ドイツ・フライブルクに生まれる。鉱山学校で学位を取得。工部省鉱山寮のお雇いとして来日、

⑪エルウィン・ベルツ 【科学・医学】
Erwin Baelz(1849—1913 在日期间 1876—1905)
ドイツに生まれる。医学を学び、母校で教鞭を執った。当時日本で唯一の医学教育機関である東京医学校で生理学・内科学の教師として招聘された。豊かな学識をもち多くの人材を育成して日本近代医学の父とよばれている。明治天皇の信任あ



＜エルウィン・ベルツ＞ 上州草津温泉之図

「お雇い外国人」とは

明治村ではこの三月から五月にかけて、春季特別展として「お雇い外国人——明治をつくった恩人たち」を開催します。そこで、この機会に、「お雇い外国人」とはどういう人たちをいうのか、いつごろ日本に来て、どんな仕事をしたのか、といったことを少し考えてみようと思います。

話が前後しますが、じつは明治村にも、このお雇い外国人(以下、「お雇い」と略す)ともあります)の設計や指導によった建物や橋がかなりあります。品川燈台(明治三年)はベルニエらのフランス人技師たちによって、菅島燈台付属官舎(明治六年)はイギリス人の燈台技師のブランドン、六郷川鉄橋(明治十年)や鉄道寮新橋工場・機械館(明治初年)は、同じくイギリスの鉄道技師たちによって、また西郷從道邸(明治十年代)はもとお雇いだったフランス人建築家のレスカスによって、といった具合です。これだけでも、彼らお雇いが明治の初年に、いかに広範囲に活躍していたかが想像できると思います。

ところで、「お雇い外国人」というのは、幕末の徳

お雇い外国人

明治をつくった恩人たち

博物館明治村館長
村松貞次郎



菅島燈台付属官舎

川幕府や明治の新政府、あるいは地方の官公庁や学校などが、給料を出して雇った外国人たちのことです。もちろん三菱とか三井といった民間の企業にもいましたが、政府主導の近代化の時代でしたから、お雇いの主力は、明治の新政府のもとで活躍していたと見てよいでしょう。また今回の特別展に登場するアメリカ生まれの宣教師で建築家でもあったヴォーリズや、ヘボン式のローマ字綴りを考案して有名なヘボンなど、お雇いとしてではなく民間で活躍した外国人たちも、もちろんお雇いではありません。しかし彼らは例外です。お雇いという言葉を広く解釈して、日本の近代化に熱心に誠実に力をつくしてくれた恩人たち、ということにすれば、差別する必要はまったくありません。給料の出かたなどは無視して「お雇い外国人」として、総括させてもらいましょう。

研究者によりますと、お雇いがもつともたくさん活躍したのは明治七年から八年にかけてで、政府関係だけでも約五三〇名、民間を含めると約八五〇名にのぼったとされています。職業別ではやはり近代化のもとになった産業関係の技術者が全体の四〇パーセント、ついで教師の約三〇パーセ

ントが上位にあげられます。また出身国別で見るとイギリスがトップで、ついでフランス、アメリカ、ドイツの順になります。イタリアからは、印刷術のキヨソネや日本近代絵画の父とよばれるフォンターネージ、あるいは大理石やブロンズ彫刻を教えてくれたラゲーザなどの芸術家が来ているのが注目されます。

広範な活躍分野

一八五八年(安政五年)徳川幕府は、永い間の鎖国政策を放棄して欧米の諸国に国を開きました。一八六八年には明治の新政府が成立して、日本の近代化が本格的に開始されました。欧米を手本にしての追いつけ、追いこせの時代が始まったのです。ほとんどすべての分野で、まったく新しい国づくりと産業の革命です。しかし困ったことに、その指導者となりうる日本人がほとんどいなかったもので、やむを得ず欧米から人を招いて指導してもらうことにしたのです。それがお雇いです。政府の高官たちは、時には総理大臣よりも高給を支給して彼らを手厚く迎えました。また、いつまでもお雇いの力に頼ってもおられないとして、大学を設立し、日本人の指導者の養成も始めました。しかし、その日本人学生の教育もまたお雇いに頼らざるを得なかったのです。

お雇いの活躍分野はじつに広範でした。新生日本のほとんどすべてと言ってよいでしょう。鉄道

あたたかく迎えた日本人たち

明治維新(一八六八年)に前後するころ、アジア諸国でも中国をはじめ多くの国がお雇い外国人を多数招いて近代化を開始したのですが、それに成功したのは日本だけ、と言ってもよいでしょう。その理由はいろいろあげられますが、やはり何とんでも約三百年の江戸時代に蓄積し洗練されてきた文化の力が大きかったと思われれます。寺子屋教育などを通して日本人は世界最高の識字率を持ってきました。儒教をもとにして養われてきた武士たちの清廉潔白な心情も、お雇いによって成功してきた近代化の成果を私することなく、また彼らに、自分たちよりはるかに高給を出すこともいとわなかったところにも、あらわれていると思います。

幸いにしてお雇いにもよい人材に恵まれました。また彼らを迎えた日本人も清潔で礼儀正しくあたたかく、しかも有能でした。お雇いの日記などにもそれがよく記されています。彼らの中には日本の女性を妻とした人も少くありません。今回の特別展に登場するお雇いでも、コンドル、ヴォーリズ、ベルツ、ミルンがそれで、ヴォーリズは日本に帰化しています。ハーンの清泉八雲もそうです。お雇いたちは、技師として、あるいは教師として与えられた職務を忠実に果たしましたが、日本の自然や風俗や芸術に強く触発されて専門外のすば

ベルツと妻ハナ子(写真提供:日本新薬株)

くに留学して、さらに力をつけて帰った人もたくさんいます。明治十九年に帝国大学が発足したころには、お雇いよって育てられた日本人たちが、師に代って教育の第一線に立ち、日本人による日本人指導者の養成ができるようになりました。そうして、お雇いの時代も明治二十年代の初めで終わりを迎えたのです。なかには日本に残って終生活躍をした人もいますが、その大部分は契約を解かれて帰国しました。お雇い教師たちは、自らの手でお雇い時代を終わらせたわけですが、またそれだけ彼らの教育が短期間にすばらしい成果をあげたとも言えます。日本人学生たちもまたすばらしい能力を持っていました。政府の計画もみごとなものでした。

を敷き、橋を架け、河川を修理して港湾を開き、燈台を建設するなどの新しい国家の骨格を造ることから、官公庁や学校をはじめ銀行から兵営に至る新しい種類の建物から、銀座煉瓦街などの町造り、さらには日比谷の中央官庁街から国会議事堂の計画までもお雇いに頼りました。

貨幣の鑄造や紙幣の印刷、あるいは外貨を獲得するための近代的な製糸工場の建設と、その技術指導など産業の近代化の分野もお雇いの独壇場でした。鉱山の開発もそうです。長崎や横須賀での造船・兵器の製造はすでに幕末からお雇いの力を行っていました。海軍はイギリス、陸軍はフランス(のちにドイツ)といった兵制の確立・整備もお雇いの力によりました。(おかげで、フィート・ポンド法とメートル法が混在することになりました)

永い伝統の漢方から西洋医学へ、和算から洋算へ、に象徴される自然科学の教育も、あるいは法制の近代化といった分野から、絵画、彫刻、洋楽などの芸術分野、さらには体育にまでお雇いの活躍がありました。文学を通して日本の良さを認識させてくれたハーン(清泉八雲)も、「青年よ大志を抱け」と激励してくれたクラークも、やはりお雇いでした。キリスト教も直接、間接に彼らの誠実な貢献を支えるものとして、日本人に大きな影響を与えました。

そして、すべては教育にかかっていました。お雇い教師たちによって日本の青年たちが各界の指導者として育てられました。なかにはその先生の母

らしい学術的な成果をあげた人が多くいます。例えば鉱山・地質学の教師として招かれたミルンが、世界最初の地震学を日本で開拓し、建築学者のコンドルが自ら日本画を学び、また日本の衣裳の歴史や華道あるいは造園などを広く欧米に紹介したことなどもあげられます。哲学教師として招かれたフェノロサが、日本の美術の評価に大きく貢献し、生物学者として来日したモースが大森貝塚を発見して日本の先史考古学に先鞭をつけた、という話も有名です。彼らの言わば好奇心によるアマチュアリズムが、日本での新しい学問の芽を育てた、ということも見落してはならないでしょう。

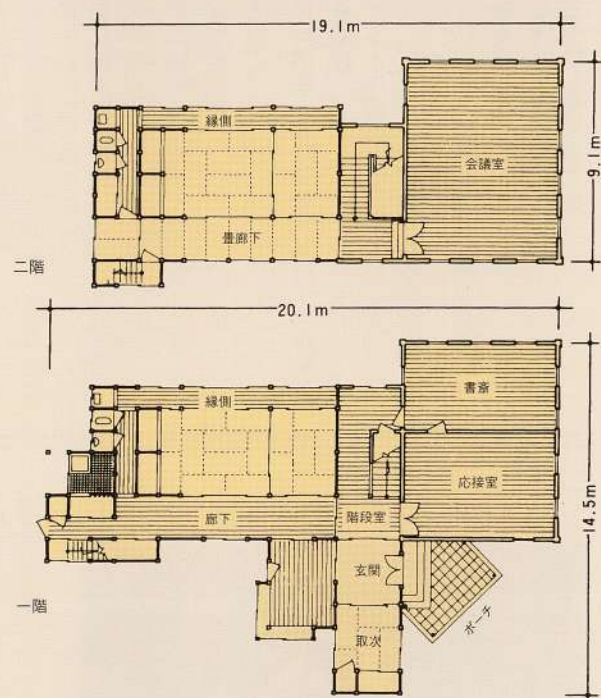
日本の近代化の方向を定めた偉大な明治という時代に、有能で誠実なヘルパーとして活躍したお雇い外国人たちは、まさに日本近代化の恩人たちです。彼らの貢献を忘れることはできません。そして博物館明治村は、それを回顧するにふさわしい場でもあります。

学習院長官舎

明治42年



この建物は学習院が東京の四谷から現在の目白に移されたのに際し、他の校舎とともにその構内に建設されたもので、設計者は不明であるが、学習院の他の建物を設計した文部省技師の久留正道、柴垣太郎などが関係したものと考えられる。建設当時の学習院長は乃木希典将軍であった。乃木院長時代は皇族寮に用いられ、次の大迫院長からは院長官舎として代々使われた。二階建の和室住宅に、同じく二階建の洋風建物が接続した形をとっているが、構造的には両者はほとんど独立した建物とみることができる。洋間は天井が高く、それに従い屋根高も和室部分より高くなっており、外壁の下見板や窓の形式も異なっているので、外観的にも独立して見える。洋風の部分は、院長の書斎、応接室及び会議室と、ホールともいべき階段室とからなっており、玄関と接続して公的なスペースをつくっている。内外ともきわめて質素で、部屋の入口や上げ下げ窓の太い枠や、やや中途半端な広さの階段室とともに、いささか大まかな感じを与えている。質実剛健を示そうとするものであろうか。それに対して和室は、いくらか数寄屋風の要素が加味された繊細な造りとなっていて、両者は全体的なプロポーションとともに面白いバランスをつくっている。



建物内部特別公開

ふだんは見られない建物の中をご覧ください。

(通常の入場券でご覧になれます。)

- ◎学習院長官舎／4月の土・日・祝日 10時～15時
- ◎第四高等学校武術道場「無声堂」／5月の土・日・祝日 10時～15時
- ◎西園寺公望別邸「坐漁荘」／6月の土・日・祝日 10時～15時



坐漁荘



春の明治村

*都合により変更する場合がありますので
詳細については事前にお問い合わせください。

明治村さくらまつり

4月14日(日)まで
4月12日(金)・13日(土)は20時まで開村
(16時以降は入場料金割引)

二千本の桜が咲き誇る春の明治村、村内各所で
花見が満喫できます。メイン会場では西郷従道邸
での喫茶(有料)やテールブルコデーネーション、学
習院長官舎での呈茶(土日、有料)がお楽しみだけ
のほか、各種屋台も軒を連ねます。4月12日・13日
には夜桜も楽しめます。

卒業メモリアル

矢舁・袴姿の女子卒業生は入場無料、その他の卒業
生は入場料金を割引します。
キャンドルサービス(有料)もあります。
3月31日(日)まで

春のミュージアムコンサート

聖ザビエル天主堂を会場にして開催します。教会
での歌声の響きをお楽しみ下さい。
(通常の入場券で鑑賞いただけます)

★4月7日(日)13時～14時
瀬戸メサイア合唱団

オラトリオ「メサイア」より

★4月14日(日)13時～13時30分 14時～14時30分
豊田市民合唱団

モーツァルト作曲「女より生まれし者」
「主の御母、聖マリア様」他

★4月21日(日)13時～13時30分 14時～14時30分
犬山少年少女合唱団

「神よたまえ平和を」

「このころを高くあげよう」他

第二十回明治村剣道大会

4月14日(日) 10時～
第四高等学校武術道場「無声堂」
昭和52年に始まった明治村剣道大会も、今回で第
二十回を迎えることになりました。全国から選ば
れた八段の範士・教士32人が、トーナメント戦で
内閣総理大臣杯を争います。
(通常の入場券でご観戦いただけます)

明治村写生大会

5月19日(日)～6月2日(日)
9時30分～16時30分
小学生、中学生が対象。明治村の建物や汽車、京都
市電、風景など、自由に描いて下さい。
(詳しい応募の規定などはお問い合わせ下さい)



平成6年愛知県知事賞 大池有佳

第三十回 明治村茶会

明治村茶会は、伝統文化である茶道を通じ、明治村
や明治建築への親近感を深めていただくことを目
的に昭和四二年に始まりました。以来、各地の美術
館や個人コレクション、工芸作家の協力を得なが
ら毎年開催、本年第三十回を迎えることになりま
した。

日時 4月23日(火)・24日(水) 10時～16時
臨時会員は24日のみとなります。

会費 一五、〇〇〇円(臨時会員)

事前に臨時会員券(明治村名鉄旅行センターなどで発売を
お買い求め下さい)

茶席

◎坐漁荘・亦楽庵席 関戸コレクション

関戸コレクションは、名古屋の名家として、又、
数寄者として知られる関戸家代々の収集品です。
数ある名品の中からの取り合わせには興味深い
ものがあります。

◎無声堂席 荒川武夫氏

人間国宝であった荒川豊蔵氏を偲ぶ茶席とし、
ご子息の武夫氏が席主を担当されます。美濃陶
芸協会会長の加藤孝造氏はじめ美濃の陶芸作家
による新作の茶碗での一服も趣があります。

◎日本庭園・野点席 唐津三星会

人間国宝であった十二代中里太郎右衛門氏のご
子息で、現在の唐津焼の中心的存在である十三
代中里太郎右衛門氏、三男の中里重利氏、五男の
中里隆氏にご兄弟での出品をいただきます。

点心席 名鉄犬山ホテル調製

明治村茶会三十回記念特別展 明治村茶会と人間国宝

4月20日(土)～5月19日(日)
三重県庁舎二階特別展示室
(通常の入場券でご覧いただけます)

明治村茶会の特色の一つに、明治時代の型式を再
現した日本庭園を利用し、現在活躍されている工
芸作家の作品による茶席を設けていることがあ
げられます。今回、明治村茶会三十回を記念し、こ
れまでに参加された作家のうち、重要無形文化財保
持者(人間国宝)の認定を受けている十六名から出
品をいただき、明治村茶会の歩みとあわせてご紹
介します。磨き抜かれた「技」と独創性にあふれた
「美の世界」をご堪能下さい。

出品作家 (敬称略・五十音順)

【陶芸】	井上 萬二 (白磁)	今泉 今右衛門 (色絵磁器)
【漆芸】	磯井 正美 (蒔繪)	三輪 休雪 (蒔繪)
【金工】	増田 三男 (彫金)	寺井 直次 (彫金)
【木竹工】	飯塚 小疋齋 (竹工芸)	吉田 文之 (撥鏝)
【撥鏝】		
【陶芸】	加藤 卓男 (三彩)	清水 卯一 (鉄軸陶器)
【漆芸】	鈴木 康成 (練上手)	松井 康成 (蒔繪)
【金工】	大場 松魚 (蒔繪)	音丸 耕堂 (彫漆)
【木竹工】	塩多 慶四郎 (彫漆)	寺井 直次 (彫金)
【撥鏝】	飯塚 小疋齋 (竹工芸)	吉田 文之 (撥鏝)